

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立少林寺小学校
校長 西村 哲也

中学校区におけるめざす子ども像

ちがいをみとめ、ともに生き、将来の夢と希望に向けて自ら学び続ける子

令和7年度 重点目標

- ・「授業改善の推進」「教育課程の充実」「家庭学習習慣の形成」を相互的に連動させて、子どもの「主体的に学習に取り組む態度」を養い、「自ら考え、実行し、仲間と共に学びを深め合う子ども」を育て、総合的な学力の向上を図る。
- ・「よりよい学級集団」を形成するために、担任と子どもが信頼関係でつながり、子ども間をつなげる取り組みを行う。子どもの人間関係づくりによって、自尊感情の向上と「自律」と「自立」の精神を育む。
- ・「在日外国人教育・国際理解教育」「キャリア教育」を総合的な学習の時間や特別活動を中心に教科横断的に取り組む。系統立てた教育課程を構築し、いじめやあらゆる差別を許さない人権尊重の精神を養うとともに社会の中で生きていくために必要な能力や態度を育む。
- ・特別支援教育を推進し、「困り感」のある児童の早期発見に努め、障がいの状況に応じた指導を充実させる。
- ・陵西学校群教育目標具現化に向け、人権教育・キャリア教育を中心とした小中一貫教育体制の推進を図る。

「確かな学び」の現状

授業改善および主体的・対話的で深い学びを実現する取り組みを展開することにより、算数においては学力向上の成果が見られた。しかし、国語においては、話すこと、書くこと、読書習慣に課題が存在する。そこで、今年度もすべての教科において主体的な学びの実現をめざし、授業改善を中心に、学力向上の基盤となる「書く力」「話す力」「読む力」の向上に取り組むとともに読書習慣の育成にも取り組んでいきたい。小規模校の特性を生かし、個に応じたきめ細やかな指導による基礎・基本の定着と、課題に対して自分の意見を持ち、友達との意見交流を通して学びを深め、課題解決力の向上を図る。そして、「少林寺っ子ノート」を有効活用することで家庭学習の定着化に取り組んでいきたい。

「豊かな心・健やかな体」の現状

本校は小規模校であり、すべての学年が単学級である。小学校生活の中で一度もクラス替えがないことから、人間関係の固定化という課題がある。そのため、人間関係が崩れると回復に時間がかかるという問題がある。そこで重点目標の一つに「子どもたちの横と縦による人間関係づくり」を掲げ、固定化されがちな人間関係を逆に強い絆として生かし、学級活動や児童会活動、縦割り活動の活性化を通して、子どもの自己有用感を高め、自身の考えや行動に責任を持たせたい。また、小規模校の特性を生かした「縦割り活動」に年間を通して取り組み、異学年交流の常時化をめざす。また、よりよい学級、よりよい学校づくりに児童が自分たちで考え、活動することにより、自治の精神と主体的な行動力を身につけさせたい。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況 (年度末)		
								自己評価	学校関係者評価	
確かな学び	総合的な学力の向上	基礎的な知識・技能の習得を図る。	★朝の読書タイム、読書ノートの表彰などを通して児童の読書活動を充実させる。	・読書時間数 ・読書ノートの記録 ・読書表彰状	・実施状況	2月	○ ・各学年、朝の読書タイムを行っている。 ・図書室整備の推進(図書の入替え、レイアウト、環境整備)により利用率、読書量ともに向上している。 ・おすすめ図書の紹介や、図書館ビンゴの実施など、児童が読書に親しみやすい取り組みを行った。	○ ・児童の図書館利用率は、学校司書および図書館サポーターとの連携により向上している。しかし、学校アンケート「学校や家でよく本を読んでいる」の肯定的評価は前年度より10%上回ったが、さらに保護者への図書館利用の実態や家庭での読書週間の啓発を行う必要がある。	○ 読書について、肯定的評価は前年度より10%上回ったのは、評価できる。活字離れが進んでいるが、継続的に取組を進めてもらいたい。	
			・わくわくタイムで、漢字や計算ドリルを反復練習して基礎学力の充実を図る。	・課題定着確認プリントにおける正答率	・課題定着確認プリント結果	2月	○ ・わくわくタイム(火～金10分間)で反復練習に取り組んでいる。	○ ・どの学年においても集中して取り組んでおり、基礎基本の定着を図ることができた。	○	
	授業改善	授業改善を行い、主体的に学習に取り組む態度を育成する。	・「少林寺っ子ノート(自主学習ノート)」による家庭学習習慣づくりを行い、主体的な学びを総合的に進める。	・家庭学習ノートの提出率70% ・学校評価アンケートにおける肯定的な回答80%	・実施状況 ・アンケート結果	2月	○ ・毎日の課題として、全学年において少林寺っ子ノートに取り組んでいる。 ・廊下に各学年の模範となる自主学習ノートを掲示して児童の学習意欲を向上させている。	○ ・家庭学習ノートの提出率および学校アンケートにおける肯定的な回答98%であった。今後は、家庭学習の質を高め、児童が取り組みやすい学習内容の明示を行い、主体的な学びの推進に取り組んでいきたい。	○	○ ・学校全体で授業改善の取り組みを進められている。 ○ ・算数の計算力などの基礎・基本の定着が必要であるように思う。今後も、タブレット端末を効果的に活用するなどしながら、授業改善を進めてもらいたい。
			・すべての教科において主体的な学びによる授業改善を進め、すべての学習の基盤となる書く力や読み取る力の向上をめざす。	・校内研究授業 ・日常の授業内容 ・児童のノートの内容	・研究授業 ・授業観察 ・アンケート	2月	○ ・9月24日、1年生において国語の研究授業を行った。 ・児童に「書く力」をつけるため、作文指導を各学年において取り組んでいる。	○ ・2つの学年と支援学級において校内研究授業を行った。成果と課題を明確にすることにより「話す力」「聞く力」の向上が見られた。支援学級においては自立活動の向上につながった。	○	
			・児童が「自分で考える」「グループで意見を出し合う」「学級全体で意見交流をする」ことを通して、自分たちで課題解決をする授業の実践を行う。	・校内研究授業 ・日常の授業の内容	・研究授業 ・授業観察 ・アンケート	2月	○	○ ・3つの学年において公開授業を行った。児童が主体的また意欲的な学習活動を行える手立てを構築した実践を行うことができた。 ・学校アンケート「わかりやすい授業づくりに努めている」においては肯定的な回答が98%であり、授業改善の効果があつたといえる。	○	
			・教科を問わず、児童一人一台のパソコンを有効活用し、児童が興味を持って取り組む授業の実践を行う	・校内研究授業 ・日常の授業の内容	・研究授業 ・授業観察 ・アンケート	2月	○ ・各学年どの教科においても、児童の発言を大切にし、児童間をつなげる発問を工夫している。 ・どの学年もタブレット端末を有効に活用している。	○ ・すべての学年においてタブレット端末を学習に有効的に活用しており、学習内容についての理解力向上へとつながった。	○	

豊かな心の育成	心の教育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業をはじめ、すべての教科を通して豊かな心（高い規範意識・豊かな人権感覚・人を愛する心・思いやりの気持ち・命の大切さ等）の教育実践に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育・道徳教育の年間計画に基づいた指導。 	・アンケート	2月	○	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業はもちろん、すべての教科において人権に対する意識をもって実践を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校アンケート「命を大切に心や人を思いやる心を育てている」において肯定的な回答は95%であり、昨年度を上回った。すべての学年において人権教育・道徳教育を円滑に進めることができた。 ○ 月一回のトラチタイムにおいて縦割り活動を行った。6年生がリーダーシップを発揮して自己有用感および責任感を育むことができた。 ○ 学校アンケート「挨拶指導に取り組んでいる」では肯定的な回答が98%と昨年度を上回ったが、児童の挨拶の実態はよくない。今後も粘り強い指導と保護者との連携が必要である。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての学年で、人権教育・道徳教育が進められており、充実しているように感じる。
		<ul style="list-style-type: none"> ●クラスづくりと縦割り活動を通して横と縦の人間関係づくりに取り組み、子どもの自己有用感を高め、考えや行動に自信と責任を持てるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回縦割り活動を実施 ・年間を通したあいさつ指導の実施 	・実施状況	2月	○	<ul style="list-style-type: none"> ・教室が「居心地のいい場所」になるよう一人ひとりの「もちあじ」を大切に学級経営に努めている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の方に対して、失礼な言葉遣いが見られた。地域や家庭の働きかけが必要であると思う。人権教育・道徳教育を通して、継続的な指導の徹底をお願いしたい。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の登下校時におけるあいさつを通して、コミュニケーションの基礎を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の登下校時の様子 	・実施状況	2月	△	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつはよくなってきているが、満足できる様子ではない。 	○		
きめ細やかな生徒指導	子どもの理解を深め、家庭や専門機関との連携を図り、きめ細やかな生徒指導を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめアンケート」や「生活習慣チェック」を通して児童の実態把握を行い、家庭と連携しながら、いじめや問題行動の未然防止、早期対応に努め、児童に寄り添った生徒指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の良好な人間関係の確立 ・生活習慣の改善 	・実施状況	2月	○	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートを行った。いじめに該当する回答はなかった。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登校の様子を見てみると、行き渋る子どもたちはほとんど見られず、学校を楽しみにしている子どもたちが多い。 ○ 教員のいじめの認識が高まっている。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ●特別な支援を要する児童の指導にあたっては、学校全体で支援体制を構築する。発達障害理解研修を行い、特別支援教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども支援委員会 ・ケース会議 ・校内研修会の実施・成果 	・実施状況	2月	○	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども支援委員会は月1回以上行っている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたち一人ひとりを大切に支援体制が整っている。引き続き関係機関との連携を強化してもらいたい。 	
人権教育・在日外国人教育	人権尊重に根ざした教育の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間や特別活動およびトラチタイムなどの学校行事等の様々な場面を通して、国際理解・多文化共生教育を推進し、人の痛みを分かろうとする気持ちを大切に、いじめや差別を許さない人権尊重の精神を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生教育の推進 ・生活アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施状況 ・アンケート 	2月	○	<ul style="list-style-type: none"> ・トラチタイムを月1回行った。すべての児童が楽しんで活動している。 ・11月27日に在日外国人・国際理解教育における全市公開授業を行った。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3つの学年において在日外国人教育の実践を全市へ向けて公開した。本校の特色ある教育活動の一つである「在日外国人・国際理解教育」の取組を発信することができた。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ★陵西学校群において「人権教育」「キャリア教育」を推進し、中学校区の教職員連携を浸透させ、これまでの実践を大切にしながら地域の実態に学び、教職員・児童の交流を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区における公開授業 ・4校交流会の実施 	・実施状況	実施時期	○	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生が中学校の体育大会に参加したり、多文化クラスの児童が中学校の文化祭で発表したりしている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少佛寺小学校の特色ある教育活動として、「在日外国人・国際理解教育」や「キャリア教育」、陵西学校群の連携のさらなる発展を期待したい。 	

校長より（年度末）

昨年度より取り組んでいる、「在日外国人・国際理解教育」「キャリア教育」に焦点をおいた教育活動をさらに深化させることができた。次年度は、児童の学力の課題を明確に見極め、授業改善に取り組んでいきたい。また、陵西学校群の学校として人権教育をさらに推進し、学校全体で児童の「差別を許さない心」「社会の中で生きていくために不可欠な能力」を育てていきたい。

学校関係者評価者から（年度末）

学校アンケートの結果から、重点目標に基づき、学校の実践が進められている。今後も地域・保護者と連携を図りながら、子どもたちのために特色ある教育活動を推進してもらいたい。